

「廃校の校舎を加工工場に！ 空き家を地産地消レストランに！」

1.はじめに

2.福島県田村市の現状

3.RESASで読み取る田村市の課題

4.食料品の市内生産の向上と
廃校・空き家の利活用の提案

1 福島県田村市を選んだ経緯

- 2017年度に「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に採択
田村市船引町瀬川地区で、「**獨協大学セガワ応援隊**」として活動



- 福島イノベーション・コースト構想推進機構の「**大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業**」に、田村市で展開する「外国語教育・環境教育を活用した『持続可能なまちづくり』創造事業」が採択！

持続可能なまちづくりを田村市で展開！
➡地域資源・観光資源を発信している！

2-1福島県田村市



人口：34,410人

世帯数：12,196世帯

面積：458.33km²

2021年11月現在

田村市は福島県中通り地方の阿武隈高原に位置。
2005(平成17)年3月1日に田村郡7町村のうち、
滝根町、大越町、都路村、常葉町、船引町の旧5町村が
合併したことにより形成。

[出典]地域人口関連統計図表の収納庫「福島県の人口」「福島県田村市の人口」(以下のURL)より作成。
(<http://popobay.sakura.ne.jp/figures/figures07000.html>)
WOMBAT「福島県の合併その1 田村市」(以下のURL)より作成。
(<http://www.wombat.jp/archives/2005/03/14/001007.html>)

船引エリア

安倍文殊菩薩堂の杉並木/移ヶ岳/鎌倉岳/船引のお人形様/歴史民俗資料館/安倍文殊菩薩堂/片曾根三十三観音/夫婦獅子舞/堂山王子神社片曾根山森林公園/ふあせる たむら/ニッコウキスゲ/堂山つつじ公園/
農家民宿みちくさ/トマトハウス/船引第一ホテル/旅館 松月/聖石温泉 恵の湯

大越エリア

鬼五郎幡五郎伝説/長源寺 大イチョウ/牧野「杜の社」けやき/かわらや旅館/鳩屋旅館

都路エリア

行司ヶ滝/大亀神社のアスナロ/西戸観音堂の杉/西戸の森/馬酔木沢の桜/中作の種蒔き桜/大亀神社の御輿/古代亀石/木造阿弥陀如来立像/
みやこ旅館/グリーンパーク都路

常葉エリア

スカイパレスときわ/舘公園/ムシムシランド/クロスカンントリーコース/安瀬旅館/大実屋旅館

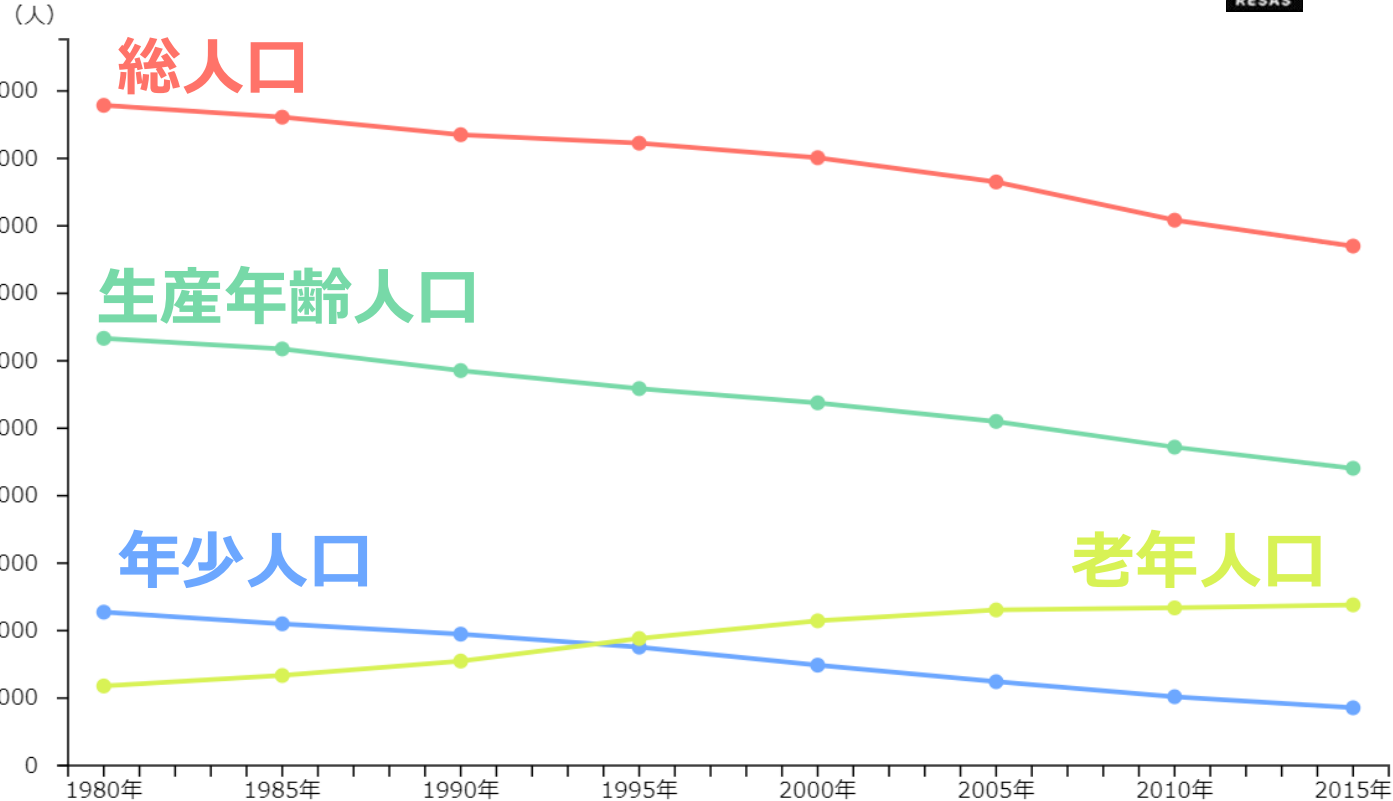
滝根エリア

あぶくま洞/天地人大学/入水鍾乳洞
プラネタリウム館大滝根山/老人憩の家針湯荘

[出典]福島県田村市観光サイト(以下のURL)を参照。(https://visit-tamura.jp/area/miyakoji/)

2-2RESASを使用した人口分析

人口推移



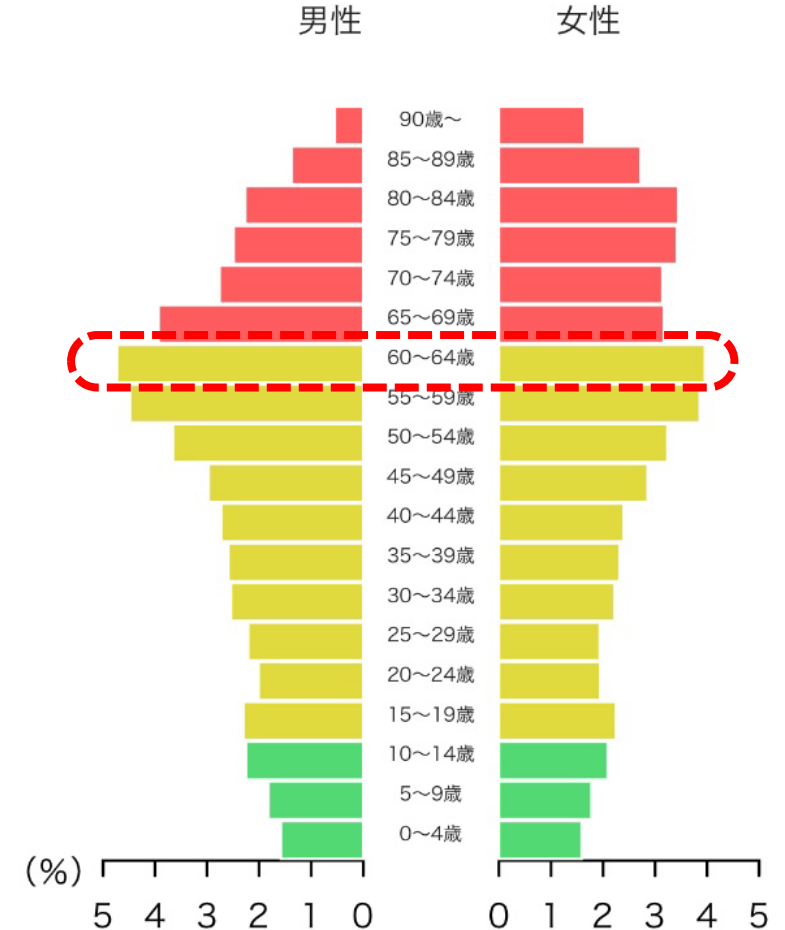
総人口、生産人口、年少人口ともに減少傾向。

老年人口に関しては、年々増加傾向。

(1985年:約14%→1995年:約20%→2005年:約27%→2015年:31%)

2015年

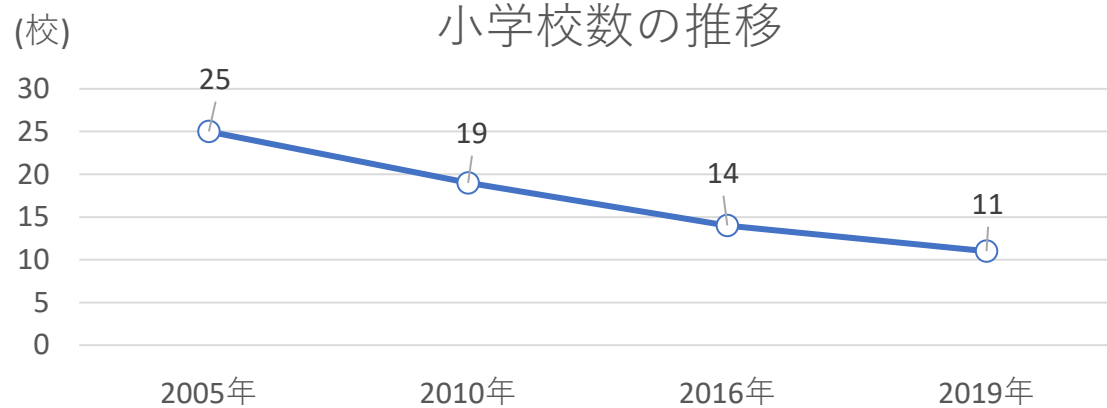
人口ピラミッド



総人口のうち60歳～64歳の占める割合が最も高い。

➡ 今後、ますます少子高齢化が進むことが予測される

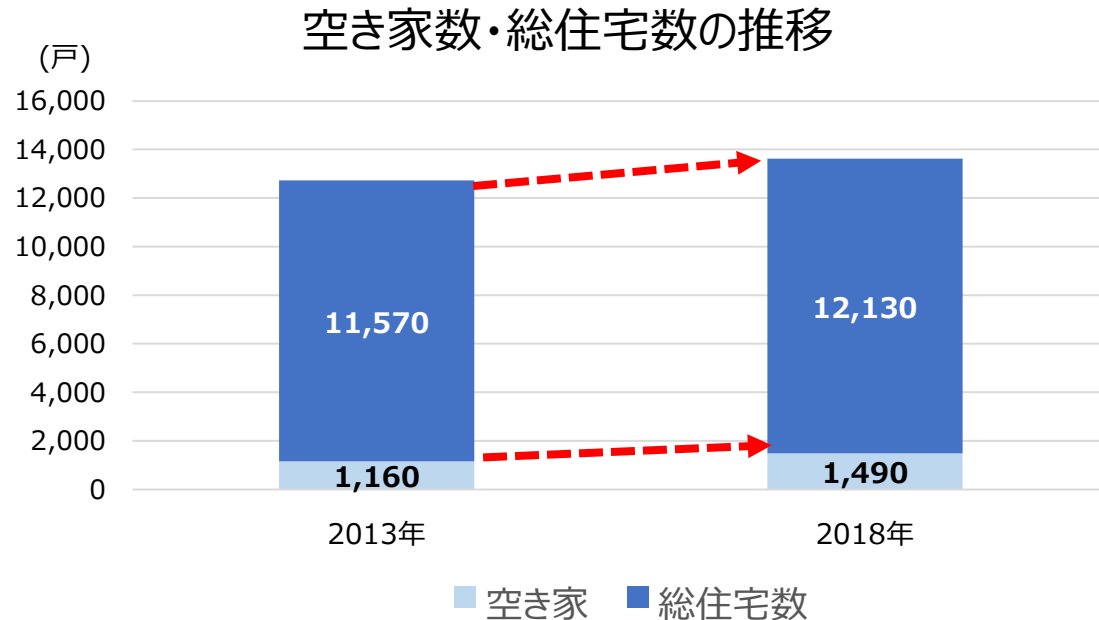
2-3廃校と空き家に関する現状



小学校数は徐々に減少(2005年に25校→2019年に11校)
約15年前と比較して半数以下になっている。

→**廃校数の増加**

[出典]田村市ホームページ「市立小学校適正規模・適正配置」(以下のURL)より作成。
(<https://www.city.tamura.lg.jp/soshiki/28/syougakkoutekiseikibotekiseihaichi.html>)



総住宅数：12,730戸(2013年) → 13,620戸(2018年)

空き家数：1,160戸(2013年) → 1,490戸(2018年)

総住宅数は5年間で**890戸**増加し、増加率は**7.0%**

しかし

空き家数は同5年間で**330戸**増加し、増加率は**28.4%**

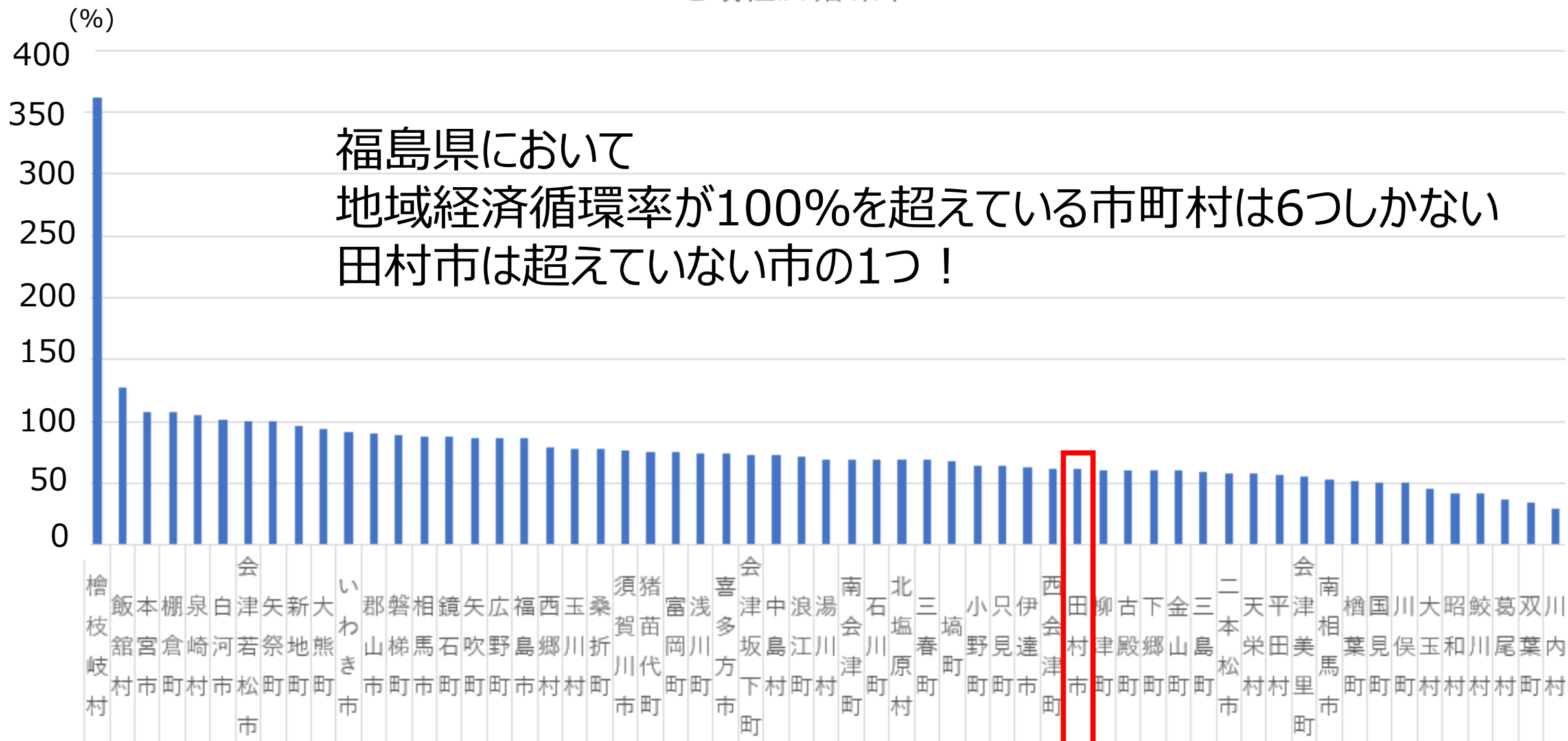
[出典]田村市ホームページ「田村市空対策計画について」(以下のURL)より作成。
(<https://www.city.tamura.lg.jp/soshiki家等/24/tamura-akiya.html>)

➡ **廃校・空き家数の増加に対する策が必要**

3-1福島県内の地域経済循環分析



地域経済循環率

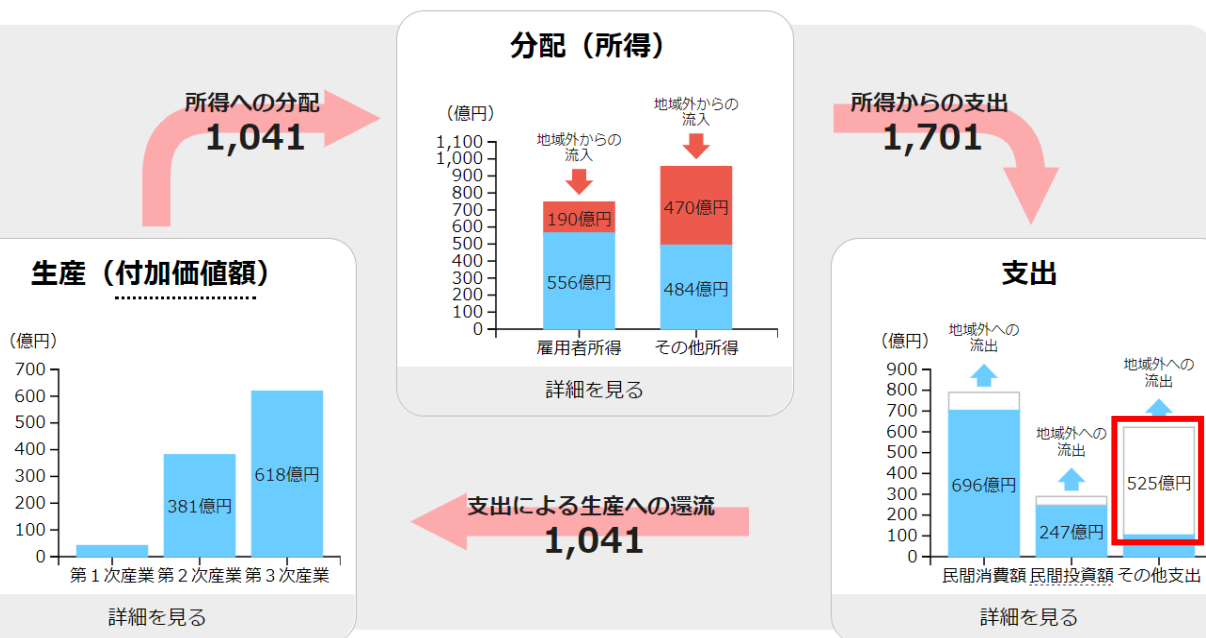


3-2田村市と福島市の地域経済循環率の比較

2015年

田村市

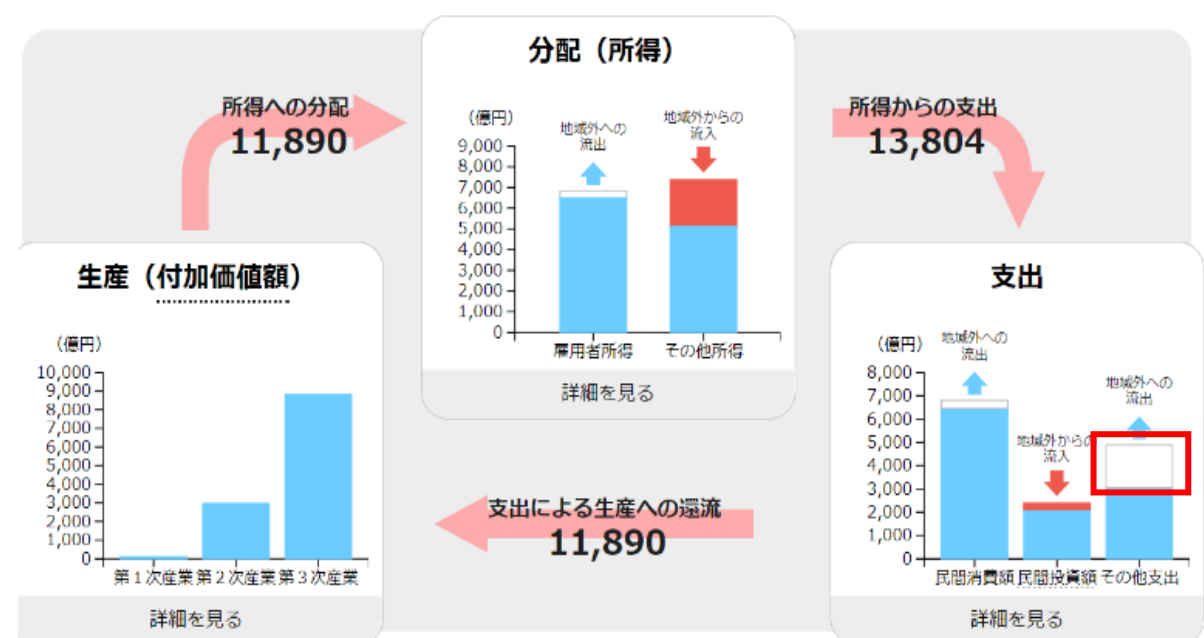
地域経済循環率：61.2%



其他支出において「**地域外への流出**」が多いため、地域経済循環率が低い。

福島市

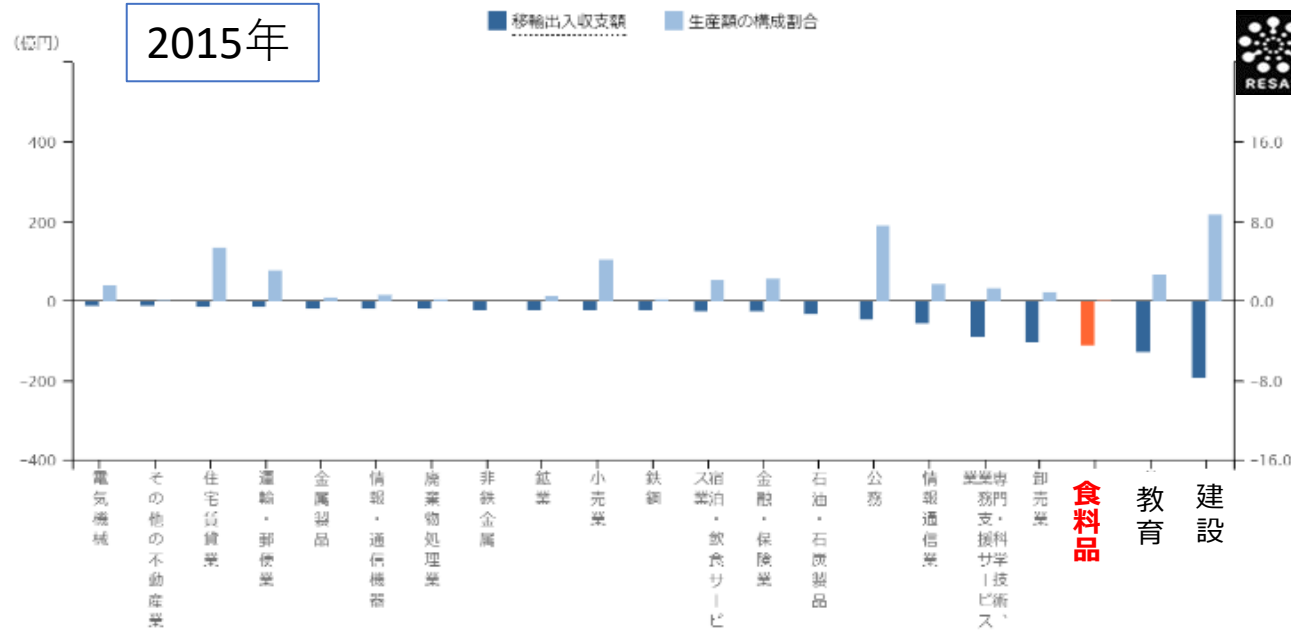
地域経済循環率：86.1%



支出の「地域外への流出」がそれほど多くないため、田村市に比べ地域経済循環率が約**25%高い**ことが読み取れる。

➡ 田村市の「地域外への流出」を招いている産業を特定する必要がある

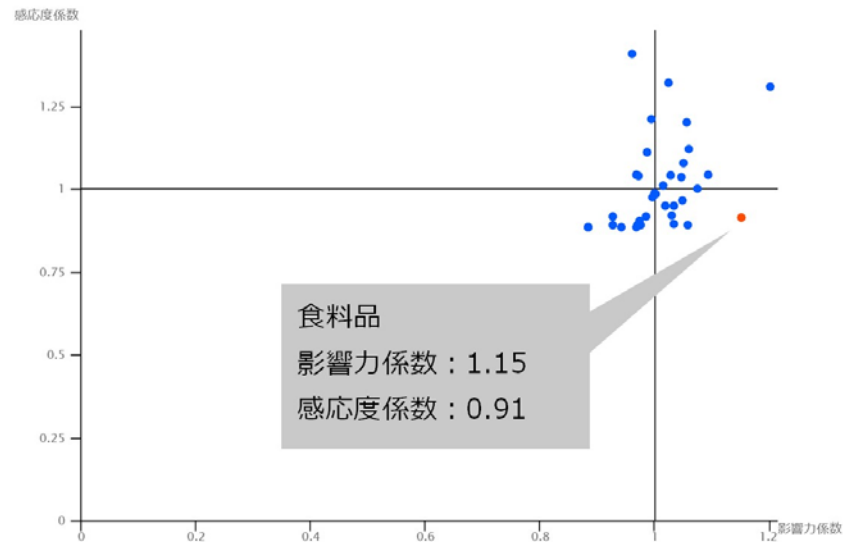
3-3「地域外への流出」産業の特定



移輸入の上位3つは建設、教育、食料品

これらは自地域で賄うことが出来ず、他地域からの移輸入に頼っているという現状。

➡「食料品」を地域内で賄うことが出来れば地域経済循環率を上げることが可能！

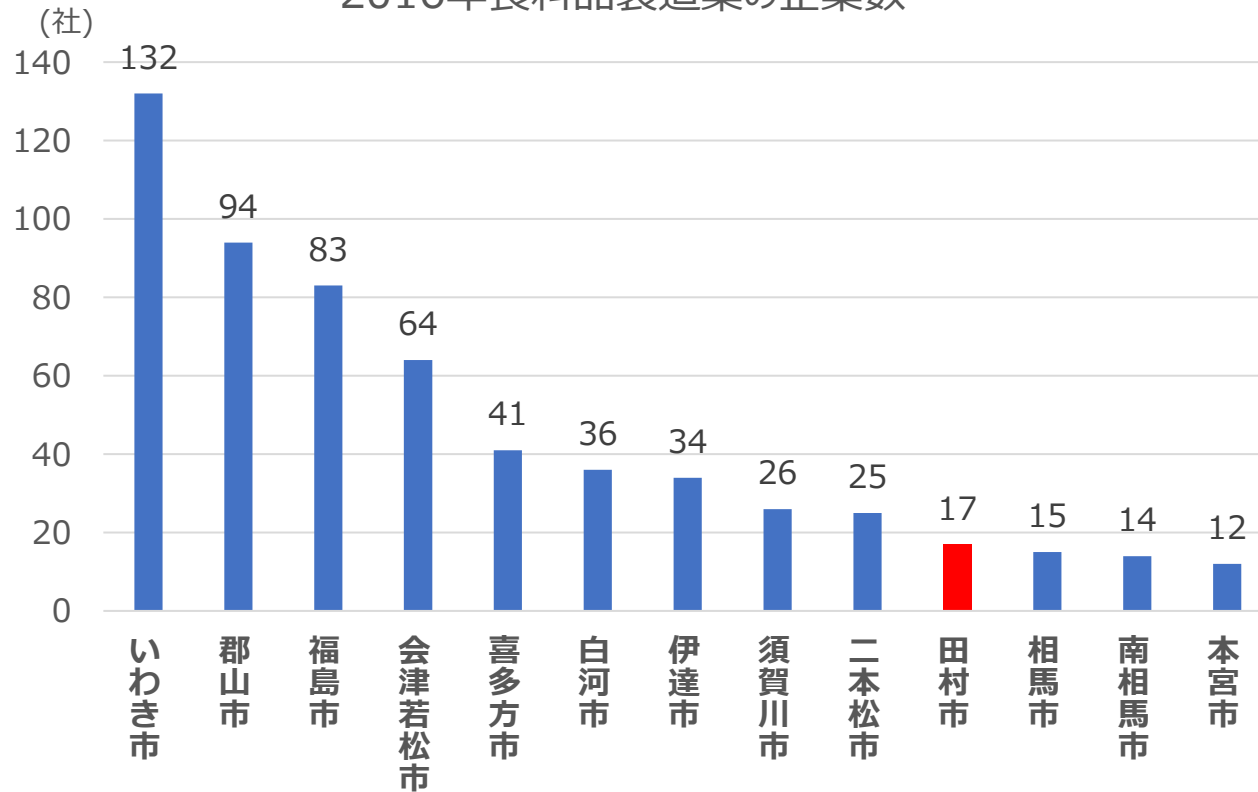


移輸出入収支額がマイナスな産業の中で最も「影響力係数」が大きい。
(全産業中 食料品は2位 ※1位は農業)

➡「食料品」の生産を増やすことが出来れば他の産業にも経済効果が波及し全産業の生産向上に繋がる！

3-4田村市の食料品製造業

2016年食料品製造業の企業数



[出典]RESAS(以下のURL)より作成。(https://resas.go.jp/municipality-company/#/graph/7/07211/2016/E/09/2/8.434628227636725/37.4583177/140.4287843/-)

田村市の食料品製造業の企業数は**17社**
これは、福島県全13市中10番目

田村市の食料品製造業者

石塚味噌店
有限会社 上濃屋製麺工場
株式会社ハム工房都路
株式会社ホップジャパン
わくわくあぶくま夢ファーム 等



[出典]FOODFAIR「有限会社 上濃屋製麺工場」(以下のURL)を参照。
(http://www.food.do-fukushima.or.jp/noodles/kaminoya-seimen.html)



[出典]ハム工房都路ホームページ(以下のURL)を参照。
(https://hamkoubou.jp/)



[出典]わくわくあぶくま夢ファームホームページ(以下のURL)を参照。
(https://r.goope.jp/abukumayumefarm/free/kikuimosy-ouhin)



[出典]FOODBRAND「石塚味噌店」(以下のURL)を参照。
(http://www.fukushima-bimi.jp/iwaki2017/koujyoumiso/)

田村市における食料品製造業者数の少なさ ➡ 加工工場を増やす必要性

4-1食料品の移輸出入収支額をプラスにするための提案

課題①

食料品の市内生産の向上

課題②

廃校・空き家の利活用



解決策

**廃校の校舎を加工工場に！
空き家を地産地消レストランに！**

4-3廃校の活用事例

近年では廃校化が進んでいるが、実際には多くの廃校が活用されている。
用途としては、社会教育施設や文化施設などが多く、福祉施設、医療施設、企業の施設などにも活用されている例がある。今回、事例として挙げる「しらかみフーズ」は生ハムの製造工場である。

秋田県の生ハムメーカー「しらかみフーズ」



2009年に旧山田小学校が廃校→2010年にハム製造工場に
(教室はそのままの状態で加工に必要な設備を追加)

会社名: 株式会社しらかみフーズ
所在地: 〒018-3502 秋田県大館市山田字寺下24
設立: 2019年4月8日
※前身「白神フーズ株式会社」は2009年創業
資本金: 1,000,000円
事業内容: 総合食品の加工及び販売、飲食店の経営

[出典]株式会社しらかみフーズホームページ(以下のURL)を参照。
(<http://shirakami018.com/profile/>)



大館市側の企業を誘致して地域活性化と雇用創出という願いと
白神フーズ創業者の地元に貢献したいという思いが一致して実現に至った。

[出典]NOSAIホームページ「農業共済新聞」(以下のURL)を参照。
(<http://www.nosaiakita.or.jp/~akita/shinbun/shinbun-2519/>)

4-4空き家の活用事例

Before



[出典]OIKAZE Route & Cal Supply提供

畳の部分が抜かれたことにより
自転車に乗ったまま
店内に入れるように



After



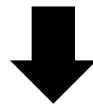
[出典]メンバー撮影



[出典]Googleマップ

〒290-0546
千葉県市原市田淵791
OIKAZE Route & Cal Supply

店の近くにはサイクリストたちがよく走る道路があるが
以前は休憩できる場所がなかった。



千葉県の中心に位置するこの地で
カフェを開くことによって
千葉県中のサイクリストだけでなく
地域住民が集まる憩いの場となった。

カフェメニュー



[出典]OIKAZE Route & Cal Supply提供

材料は地産地消

ベーコン → 五井駅のタンネバウムから
イモ → 集落の方から
あんこ → 上総牛久の老舗の和菓子屋から

4-5工場設置の詳細

候補地① **関本小学校(常葉町)** 2019年廃校
閉校したのが直近であるため、改修等の費用を抑えることができる。
(築年数は50～60年程度)

①



[出典]田村市教育ポータルサイト(以下のURL)を参照。
(<https://tamura.fcs.ed.jp/%E9%96%A2%E6%9C%AC%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1>)

候補地② **山根小学校(常葉町)** 2010年廃校

③ **岩井沢小学校(都路町)** 2017年廃校

市の大動脈といえる、国道288号線沿いに立地しているため、
交通・物流の面において優位性がある。



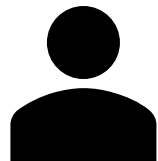
[出典]Youtube「山根小学校最後の校歌♪」(以下のURL)を参照。
(<https://youtu.be/a3qAu0YNDjg>)



[出典]田村市教育ポータルサイト(以下のURL)を参照。
(<https://tamura.fcs.ed.jp/%E5%B2%A9%E4%BA%95%E6%B2%A2%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1>)

↑ 上記3つの小学校は、工場規模の観点からも良い
(※田村市の食肉加工「ハム工房都路」が200㎡～300㎡程度であり、上記の小学校は満たしている)

生産者のニーズに関して



田村市経営戦略室

「市内の生産者が、栽培等を行った農産物を加工する場所が市内に無いのも事実」

「生産者からも加工所開設の希望もある」

「これらのマッチングを図ることが所得の市外流出を抑える一助になる」との回答

4-6空き家の詳細

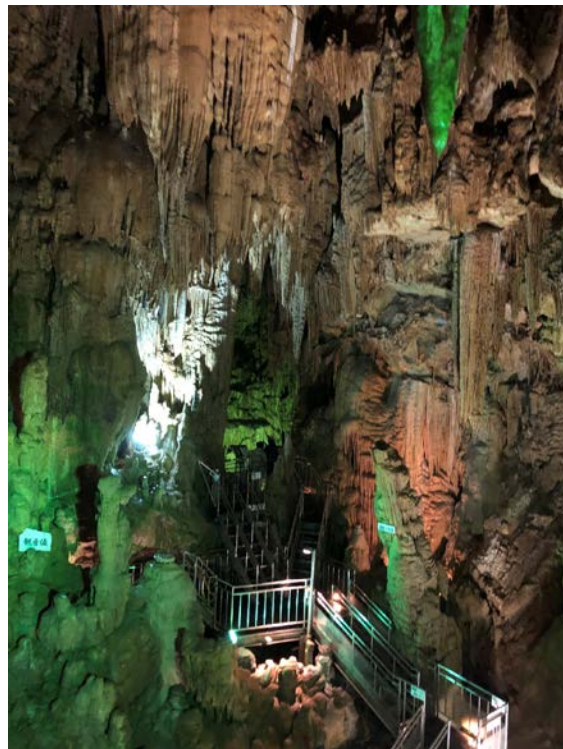
候補地

①あぶくま洞の周辺地域

ターゲット

あぶくま洞に訪れた観光客

→年間観光客数が20万人越え
多く人の目に留まる可能性



[出典]あぶくま洞ホームページ「あぶくま洞見どころマップ」

候補地

②常葉商店街

ターゲット

田村市内の人々

→人通りの多い常葉地区周辺
地域の方が来てくれる可能性



[出典]阿武隈のとびら



[出典]Googleマップ

4-7加工する食料品について

品目別 農業産出額(福島県田村市)
市町村別農業産出額 (推計) : 80.5億円



鶏卵 : 25.5億円 生乳 : 1.9億円 米 : 15.8億円 いも類 : 0.7億円 肉用牛 : 11.7億円 果実 : 0.5億円
野菜 : 11.6億円 生乳以外の乳用牛 : 0.3億円 工芸農作物 : 2億円 豆類 : 0.1億円

田村の極

田村の極とは、地域産業の活性化を目的とし、2020年7月に創設された田村市産品のブランド認証制度。
田村市の特産品の中で特に優れたものをブランド産品として認証し、全国へPRしている。

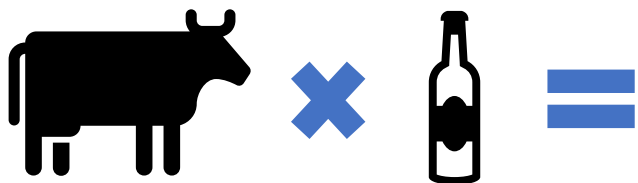
あぶくまの天然水、えごま油、福うなぎ長浦焼き など



レストランのメニュー案

[出典]あぶくま洞ホームページ「田村の極」(以下のURL)を参照。
(<https://abukumado.com/tamura-no-kiwami>)

☆牛肉の赤ワイン煮込み



☆ぶっかけエゴマそば



4-8損益分岐点

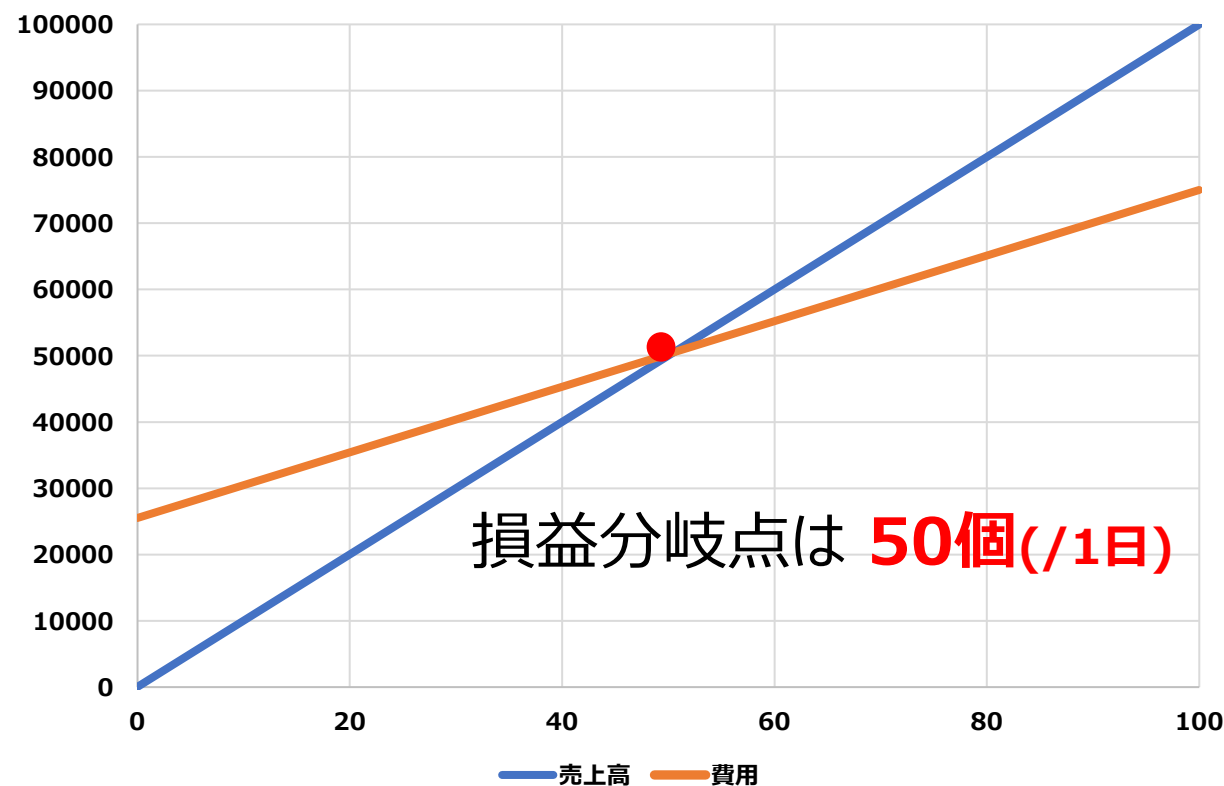
例えば、前スライドで示した「牛肉の赤ワイン煮込み」を1つ1000円で「100食」販売したと仮定する。

- ・「原材料費」は、牛肉や赤ワイン(500円×100個)50,000円
 - ・「リース料」は、冷蔵庫や冷凍庫など5,000円
 - ・「人件費」に関しては、(日給1万円×2人) 20,000円を想定している。
- 費用計…75,000円

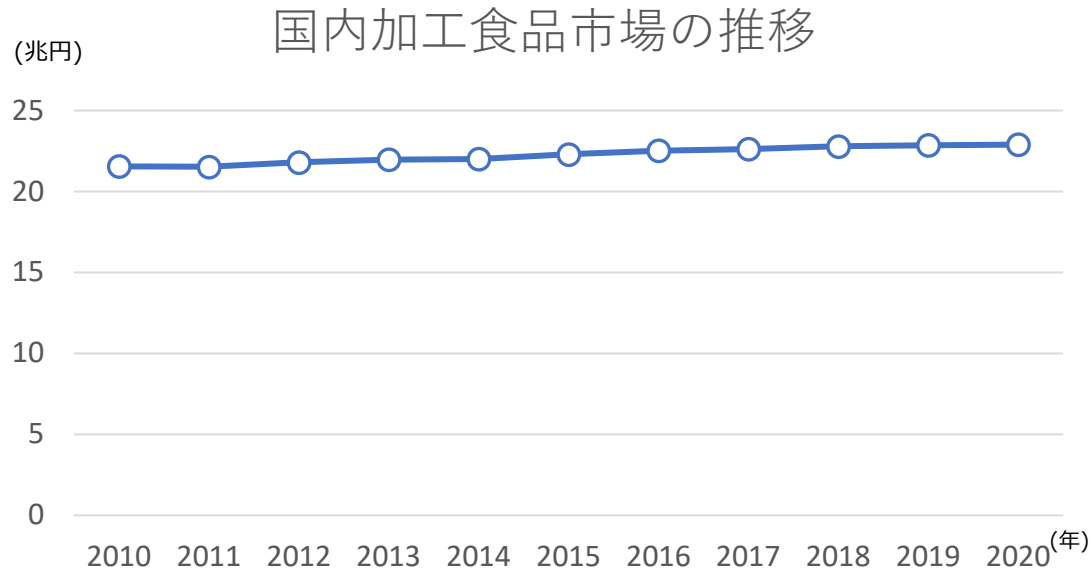
1日あたりの収支計算書

		単価	数量	合計
収入	売上	¥1,000	100	¥100,000
費用	原材料費	¥500	100	¥50,000
	人件費	¥10,000	2	¥20,000
	リース料			¥5,000
	小計			¥75,000
収支				¥25,000

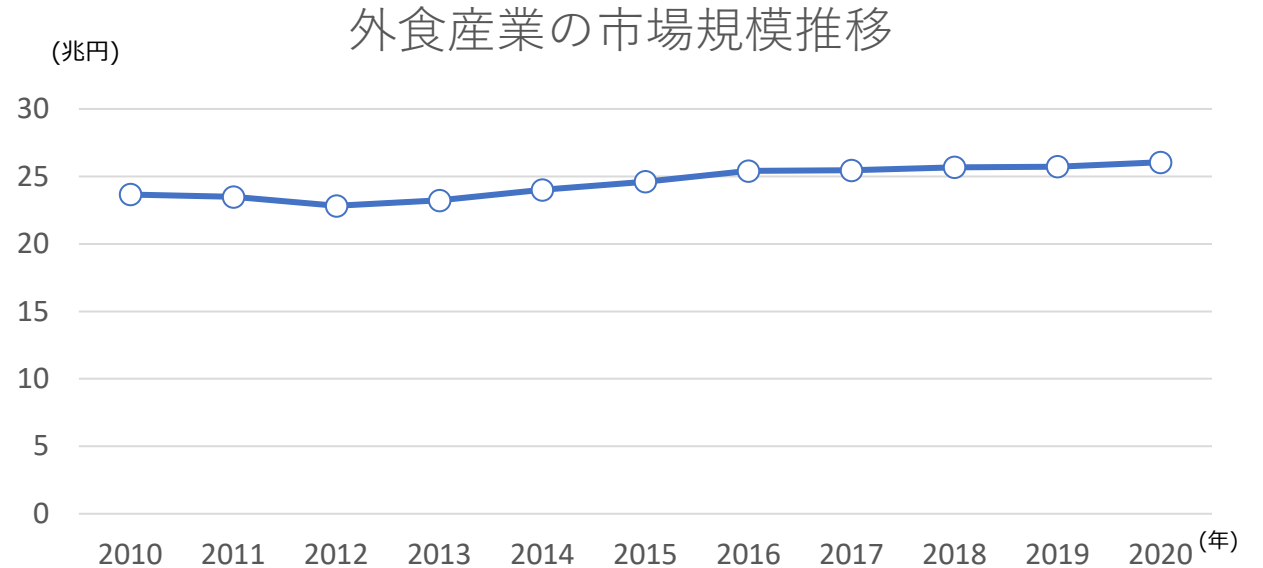
損益分岐点



4-9マーケット推計



[出典]JAcom農業協同組合新聞「国内加工食品市場23年に22兆9422億円に」(以下のURL)より作成。
(<https://www.jacom.or.jp/ryutsu/news/2019/07/190722-38677.php>)

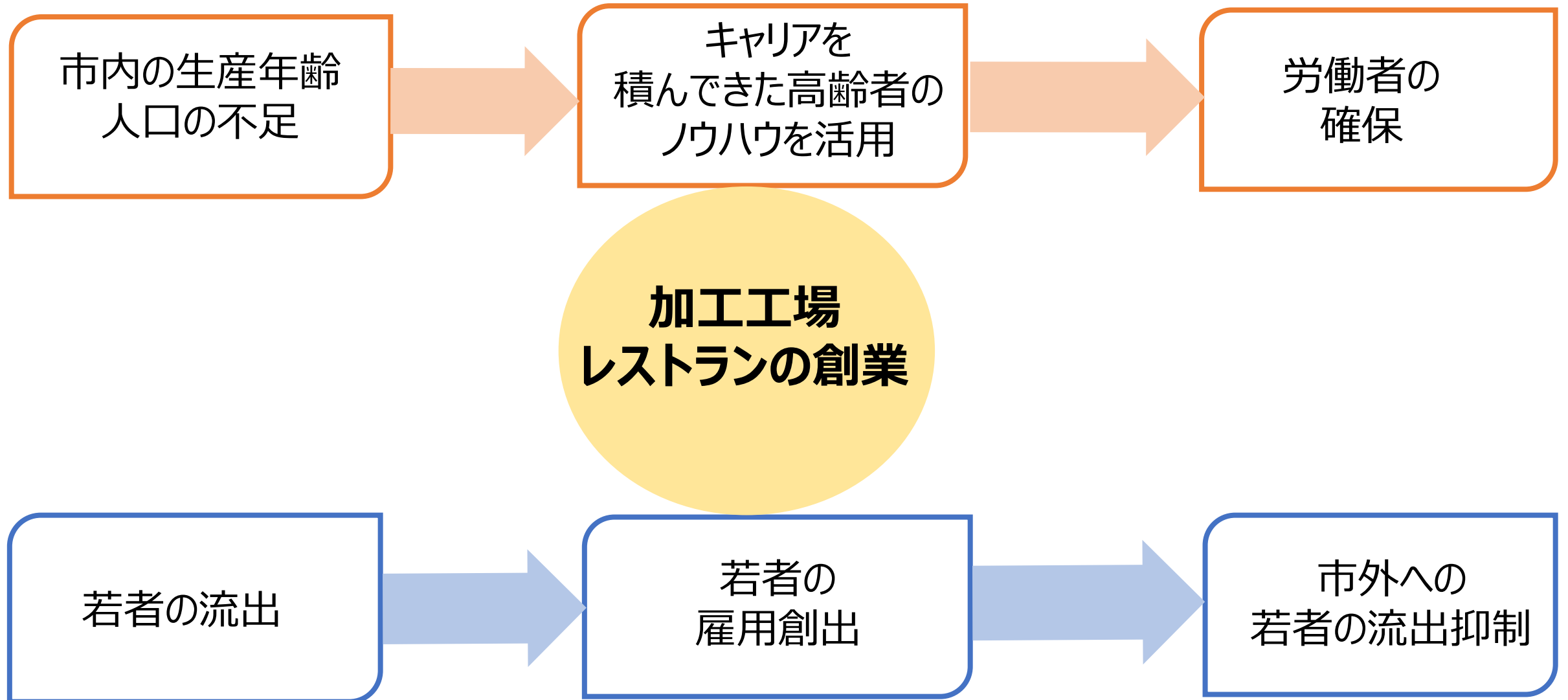


[出典]一般社団法人日本フードサービス協会「データから見る外食産業」(以下のURL)より作成。
(<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=http%3A%2F%2Fanan-zaidan.or.jp%2Fdata%2F2020-1-2.xls&wdOrigin=BROWSELINK>)

加工食品市場・外食産業はともに安定した需要
どちらの市場も、2020年にコロナの影響あまり受けていない

➡ 今後も多くの需要が見込める

4-10雇用の創出



4-11期待される効果

加工工場の設置



リノベーションによる「建設業」の需要増加
廃校の校舎・空き家をリノベーションすることで
「建設業」に新たな需要が期待できる。

レストランの設置



廃校・空き家の有効活用のモデルケースとなり得る
廃校や空き家の有効活用は、全国共通の課題となっている。
今回の提案が成功すれば
こうした課題を解決するためのモデルケースとなる。

「農業」への需要増加

地産地消レストランは地元の食材を取り扱うこととなるため
「農業」に新たな需要が生まれる。

雇用が生まれる



若者が住み続ける街に



家族や若者が田村市内で集える場所に
家族や若者同士で行くことの出来るレストランを目指す。
今まで郡山市などに行っていた若者に地元でお金を落としてもらう。



地域経済循環率が上がる



4-12リノベーション、学校の貸借等の費用調達

◆ 市の助成制度

- ・「田村市遊休公共施設等利用活用促進条例」により、遊休施設を活用した取組として認められることで譲渡価格を最大1/10に減額可能。
 - ・事業費用の1/5が付与される。
- ※上限は事業費用が300万を超えても最大60万まで

◆ クラウドファンディング

ネット上で「プロジェクト」を立ち上げ「支援者」から出資金を募る。

◆ ふるさと納税

寄付金の対価として田村市の特産品等をリターンとして渡す。

4-13 私たちの関わり方

- ・田村市内に加工工場や地産地消レストランの企画提案
- ・田村市産の物産展のプロモーション（学内や関東圏）

学内のイベント「雄飛祭」や「Earth Week Dokkyo」

マルシェ



田村市での
地産地消



関東圏での
販売



経済波及効果・PR

4-14今後の予定

～2021年

～2023年

～2024年

短期目標	中期目標	長期目標
・田村市への現地調査 ・廃校を探す ・空き家を探す ・田村市の地域の方々と意見交換	・レストラン内に入る業者を探す ・加工業者を探す ・雇用者を探す	・費用の確保 ・本提案を実現させ 加工工場及びレストランの設置

福島県田村市

田村市役所

一般社団法人Switch
(若手経営者向けの育成事業)

地消地産レストラン

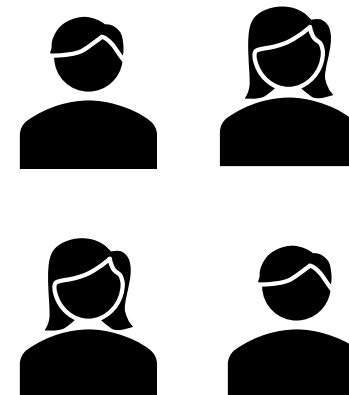
- ・ぷくぷく茶屋(船引町芦沢地区)
- ・ドルフィン(船引町船引地区)
- ・よりあい処「華」(都路町古道地区)

(株)ハム工房都路

地域の方々を巻き込む体制

連携・協力

獨協大生





**若者が住んで、働いて、集える
「田村市」へ！**

